

# 庚申信仰

十干・十二支

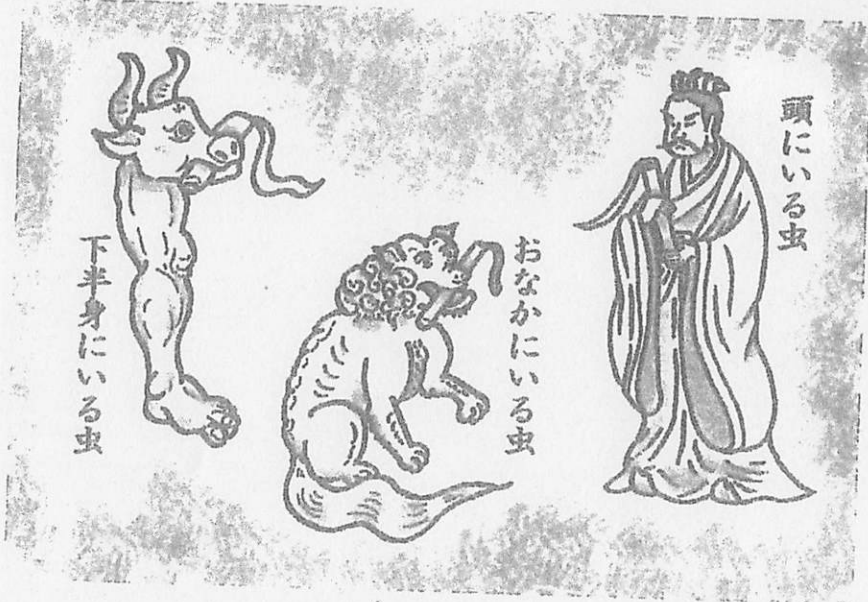
庚申さま — 長生きを願う人びとの思いにこたえる全国各地で信仰された庚申さま —

お寺の参道入口や、境内のかたすみには、「庚申」と刻まれた石を見かけることがありますが。これは庚申さまと呼ばれる石塔です。「庚申」とは、干支をもとにした暦の中で、六十日に一回ある「かのえさる」の日に由来しています。今でも庚申さまは全国各地で信仰されています。さて、庚申さまとはどんな神さまなのでしょう。

庚申さまの信仰は、中国の道教をはじめ、いろんな信仰がまじりあつてできた、とてもおもしろい考え方もとになっています。

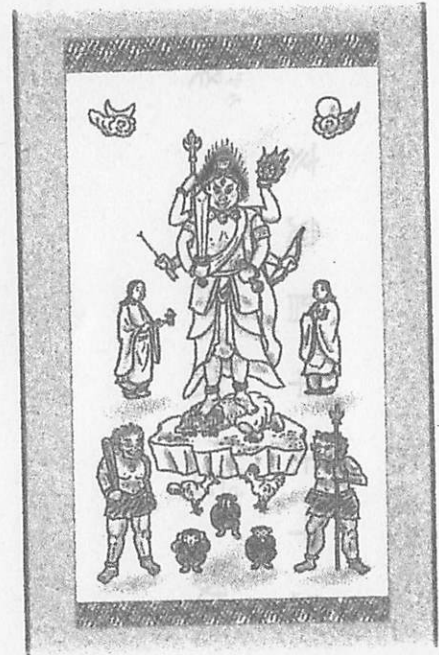
まず人のからだの中には、三戸という三匹の虫がいるというのです。この虫たちがいるために、イライラしたり、おなかの病氣になったり、足腰が弱くなったりすると考えました。「虫の居どころが悪い」なんていう言い方もここから来ています。三戸は、ふだん人の中から出ることができませんが、庚申の夜だけは、その人が眠るとからだから抜け出すことができ、人間の寿命を司る天帝という神さまのところへ、その人の悪事の報告に行くといいのです。

人間の寿命についても庚申信仰は独特な考え方をします。人間は、もともとだれもがみな同じ寿命を持っているというのです。そして天帝は、それぞれの人間が悪いことをした



分だけ、その人の寿命を短くしていくのです。考えてみれば、よいことをした人だって早く亡くなることもあるし、その逆の場合もあるでしょう。だからここでは、特別な考え方だと思つて聞いてくださいいね。

しかし地上の人間すべての行いに、天帝の目がとどくわけではありません。そこで、六十日に一度、それぞれの三戸の報告を受けて、人間の寿命を調整していくというのです。人間は、いつも正しい生活ばかりをしているとは限りません。ちよつとしたまちがいは、誰にでもあります。ささいなあやまちまで天帝に報告されて、そのたびに寿命が縮んでいったらたいへんです。だから三戸が天帝へ報告するのを、なんとかくいとめようと考



えました。そこで庚申の夜は、できるだけ正しい生活を心がけて、徹夜で朝まで過ごすことにしました。翌日の日の出まで眠らずにいれば、三日はからだから出て行けないからです。

こうして庚申の夜は、近所の家に集まり、お酒や悪口をつつし、朝まで一緒に過ごし、長生きを祈るようになりました。これを「庚申待ち」と言います。

庚申待ちのときには、掛軸を掛け、庚申さまのお唱えごとをします。掛軸の絵の中心には、青面金剛という仏さまが描かれています。これが庚申さまのご本尊と考えられました。絵の中には、三匹の猿の姿も描かれています。これは「見ザル、聞カザル、言ワザル」と言って、人間の小さなまちは、どうぞ知らぬふりをしてくれますように、との期待をこめたものだと言われています。

庚申信仰は、人びとのそぼくな長生きへの願いがもとになってできあがったものと言います。



ます。仏教の立場からすれば、人間の善悪と、人生の長短はなんの関係もありません。けれどもお寺は、そんな仏教ほんらいの教えを守りながらも、人びとのそぼくな信仰をも受け入れてきた場所でした。お寺は、仏をまつり、仏の教えを広める仏教の道場です。その一方で、お寺は神聖なところと考えられ、仏教の仏さまばかりでなく、人びとが敬う、いろんな尊いもの、ふしぎなもの、大切なものが集められ、おまつりされてきました。庚申さまもその一つ。ほかのお寺の神さまたちと一緒に、人びとの願いを受けとめてきた神さまなのです。

る米出なまび合衣膝のう一回一回十六

# 庚申の日とは

干支とは えと 十干・じゅうにし 十二支のことである

じゅうにし 十二支 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

じっかん 十干 きのえ 甲 きのと 乙 ひのえ 丙 ひのと 丁 つちのえ 戊 つちのと 己 かのえ 庚 かのと 辛 みずのえ 壬 みずのと 癸

子	丑	寅	卯	辰	己	午△	未	申◎	酉	戌	亥
甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙
丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁
戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己
庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙△	丁	戊	己	庚	辛
壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚◎	辛	壬	癸
甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙
丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁
戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己
庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙△	丁	戊	己	庚	辛
壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚◎	辛	壬	癸
甲	乙	丙	丁								

◎ が重なった日が庚申の日 こうしん

△ が重なった時が丙午 ひのえうま

六十回に一回この組み合わせが出来る